

# 第10回 地域における人とくらしのWG 説明資料

---

平成29年1月16日  
総務省

【予算】医療・健康データ利活用基盤高度化事業 3.0億円（28年度当初 3.5億円、28年度補正 39.9億円の内数）

- 医療・健康データの活用に向け、個人の医療・介護・健康情報を時系列的に管理できるPHR（Personal Health Record）機能や、AIを活用した健康指導等の支援を実現する技術の確立等に向け、以下の施策を実施。

## PHR機能の実現

個人の健康・医療・介護情報をポータブルかつ効率的に管理・活用できる情報連携技術のモデル研究

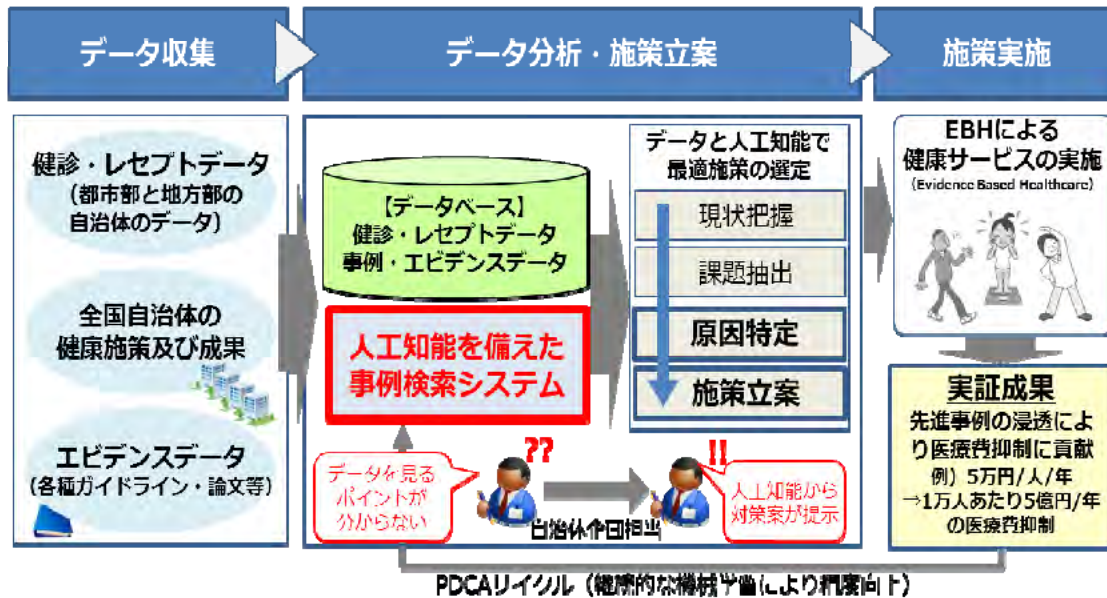
## AIを活用したデータヘルス推進

健診・レセプトデータの解析・機械学習等を通じた利活用のユースケースの検討及び課題の検証を行い、AIを活用した保険者による健康指導の支援に向けた具体的方策を研究

### PHR機能の実現



### AIを活用したデータヘルス推進



【予算】 自律型モビリティシステム(自動走行技術、自動制御技術等)の開発・実証 9.5億円(28年度 9.8億円)

- 安全・安心な自律型モビリティシステム(電気自動車、電動車いす、自律ロボット等)の実現に向けて、電波の有効利用を促進するとともに、高効率な通信処理技術、自動走行等に必要な高度地図データベースの更新・配信技術、緊急時の自動停止・再起動等の高信頼化技術等の開発及び社会実証を推進し、自動走行技術の早期の社会実装、観光、福祉等の多様な分野への展開にも寄与



### 自律型モビリティシステム等の実現

各種の自律型モビリティシステム(電気自動車、電動車いす等)



自律型電気自動車



自律型電動車いす



ネットワーク制御型  
工事車両



多様な応用分野  
(自律ロボット、ドローン等)



自律走行型案内ロボット



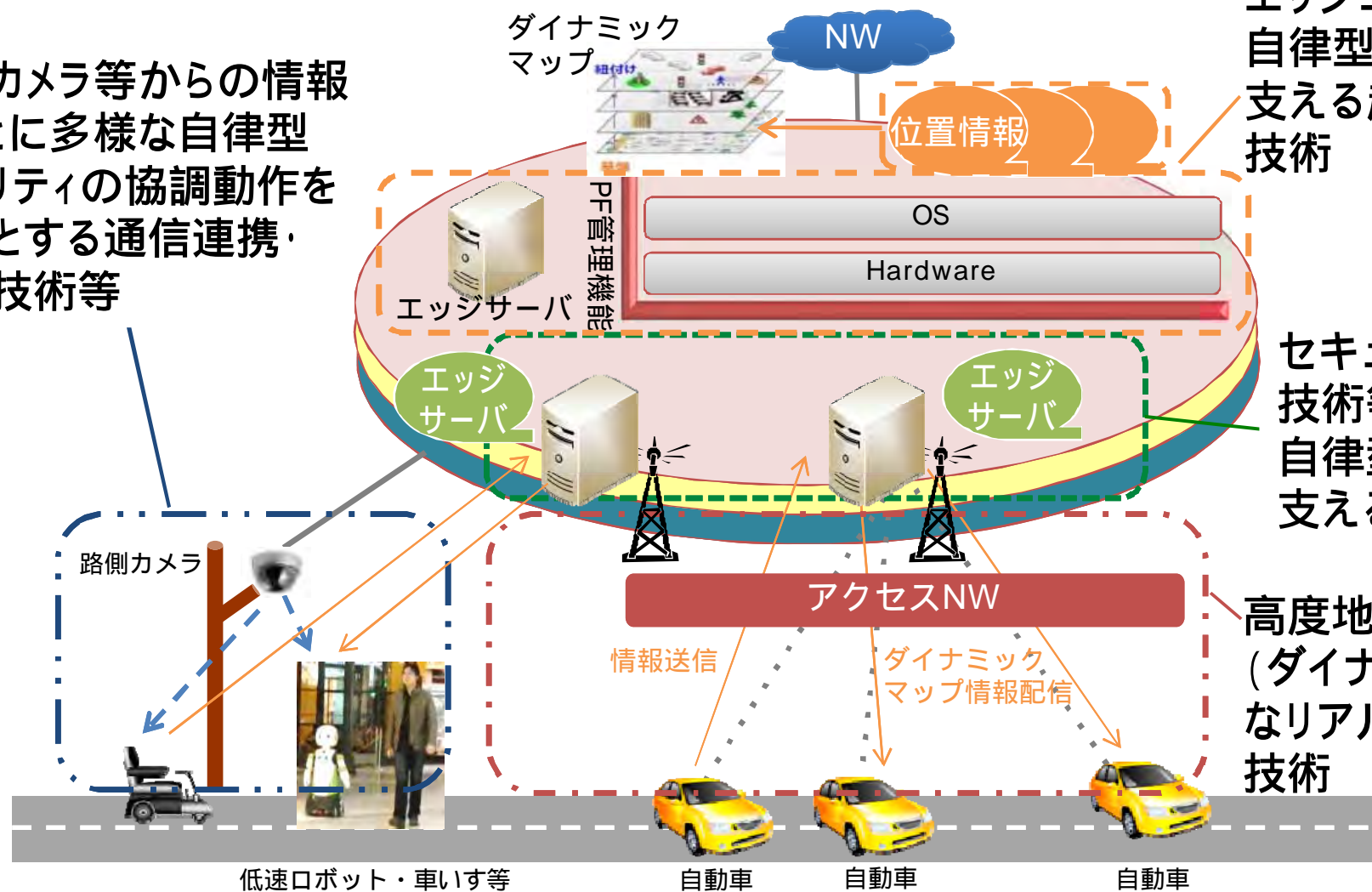
荷物運搬用  
自動飛行ドローン



- 自律型モビリティシステムの基盤技術の開発を行い、その開発成果を結合し、通信ネットワーク・情報処理基盤・セキュリティ基盤を一体とした自律型モビリティシステム用プラットフォームの構築と実証実験を実施。
- また、インターフェースの技術仕様の公開等により、スマートIoT推進フォーラムの会員等が電気自動車、ロボット、ドローン等を自由に接続して実証可能なオープンテストベッドを構築し、YRP等の実フィールドにおいて社会実証を推進。

## 自律型モビリティシステムの開発・実証の全体像

路側カメラ等からの情報をもとに多様な自律型モビリティの協調動作を可能とする通信連携・協調技術等



エッジコンピューティング技術  
自律型モビリティシステムを支える超低遅延な通信制御技術

セキュリティ異常検知・判断技術等  
自律型モビリティシステムを支える高信頼化に係る技術

高度地図データベース  
(ダイナミックマップ)の高效率なリアルタイム更新・配信技術

低速ロボット・車いす等

自動車

自動車

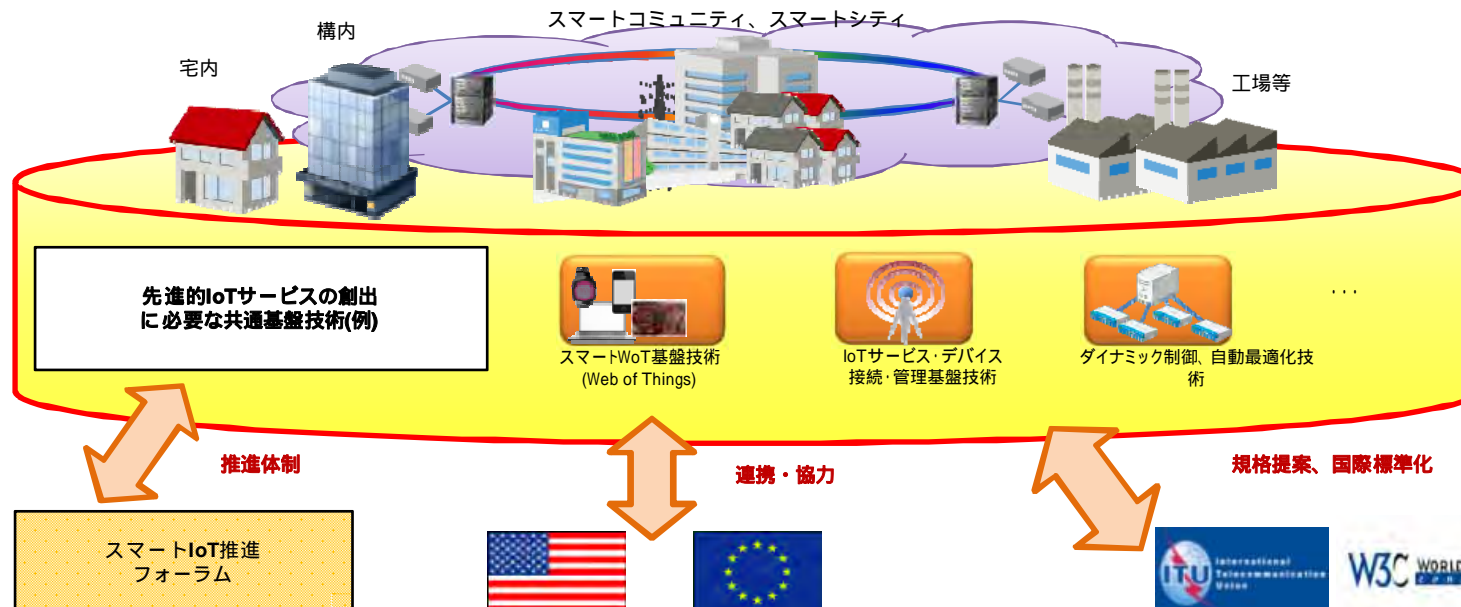
自動車

【予算】 IoT共通基盤技術の確立・実証 3.1億円(平成28年度 3.5億円)

- 多様なIoTサービスを創出するため、膨大な数のIoT機器を迅速かつ効率的に接続する技術等の共通基盤技術を開発するとともに、多様なサービス提供者によるIoTデータの相互利用を図る先進的な社会実証を目指した取組を推進。
- あわせて、産学官連携による推進体制「スマートIoT推進フォーラム」と連携し、欧米のスマートシティに係る実証プロジェクト等と協調して、国際標準化に向けた取組を強化。



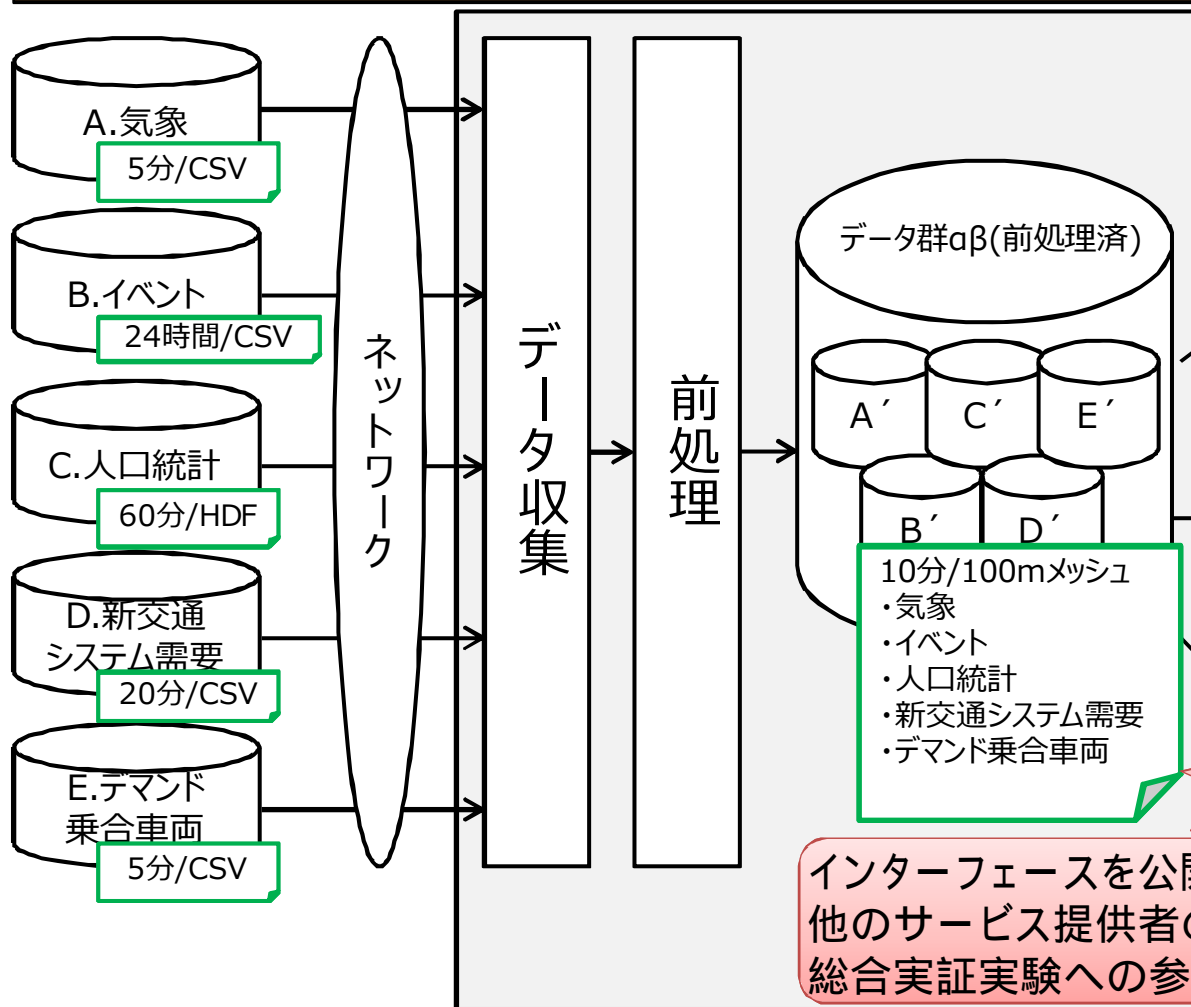
様々な分野において多様なIoTサービスの実証を行い、先進的なIoTサービスの創出を推進



様々なIoTデータを複数のサービス提供者が利用するためのIoTデータ形式の共通化・正規化・抽出技術の確立、および機能の有用性や実用性を交通分野をモデルケースとしてサービス実証を通じて検証。

交通分野の様々なIoTデータは、データ形式・更新頻度・配信形式が様々であり、複数のサービス提供者が利用するためには、共通で利用できるデータ(前処理済)が必要。このため、データの最適な共通単位の検討を行うとともに、複数サービス提供者がセキュアかつ便利に利用するための共通機能の開発と総合実証実験を実施。

## ア) IoTデータの形式共通化・正規化・抽出技術



## イ) 複数サービス共通機能技術

